

研究評価委員会
「ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発/
化合物等を活用した生物システム制御基盤技術開発」(事後評価)分科会
議事要旨

日 時：平成23年7月11日(月) 10:00~18:00

場 所：大手町サンスカイルーム A室(朝日生命大手町ビル27階)

出席者(敬称略、順不同)

<分科会委員>

分科会長	前田 忠計	北里大学 名誉教授
分科会長代理	阿久津 達也	京都大学 化学研究所 バイオインフォマティクスセンター 教授
委員	井本 正哉	慶應義塾大学 理工学部 生命情報学科 ケミカルバイオロジー研究室 教授
委員	齋藤 均	日本新薬株式会社 研開企画統括部 執行役員
委員	堤 康央	大阪大学 大学院薬学研究科 応用医療薬科学専攻 教授 独立行政法人医薬基盤研究所 創薬基盤研究部 バイオ創薬プロジェクト チーフプロジェクトリーダー
委員	長洲 毅志	エーザイ株式会社 理事・CSO 付担当部長
委員	西島 和三	持田製薬株式会社 医薬開発本部 専任主事

<推進者>

森田 弘一	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	部長
古川 善規	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	主任研究員
加藤 紘	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	プログラムマネージャー
澤田 育久	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	専門調査員
宮川 知也	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	主査
上村 研一	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	主査
大友 純	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	主査
下川 晃彦	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	主査
矢野 貴久	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	主査
中村 茉央	NEDO	バイオテクノロジー・医療技術部	職員

<オブザーバー>

新階 央 経済産業省 製造産業局生物化学産業課 産業分析研究官

<実施者>

夏目 徹(PL)	産業技術総合研究所	バイオメディシナル情報研究センター	研究チーム長
家村 俊一郎(SPL)	産業技術総合研究所	バイオメディシナル情報研究センター	主任研究員
五島 直樹(SPL)	産業技術総合研究所	バイオメディシナル情報研究センター	主任研究員
新家 一男(SPL)	産業技術総合研究所	バイオメディシナル情報研究センター	主任研究員
広川 貴次(SPL)	産業技術総合研究所	生命情報工学研究センター	研究チーム長
土井 隆行(SPL)	東北大学大学院	薬学研究科	教授

菅 裕明	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
柿谷 誠	協和発酵キリン株式会社 次世代創薬研究所 主任研究員
菊池 泰弘	協和発酵キリン株式会社 研究企画部 マネージャー
唐澤 智司	Amalgaam 有限会社 開発・管理グループ グループリーダー
成田 公明	バイオ産業情報化コンソーシアム 専務理事
南 多善	バイオ産業情報化コンソーシアム 理事・事務局長
森岡 一	バイオ産業情報化コンソーシアム JBIC 研究所 所長
桂 洋介	バイオ産業情報化コンソーシアム JBIC 研究所 担当部長
田中 正史	東海大学医学部 特定研究員
中島 秀典	アステラス製薬分子医学研究所 主席研究員
平山 令明	東海大学基礎医学系分子生命科学 教授
藤井 秀明	北里大学薬学部 専任講師
清水 忠	兵庫医療大学薬学部 助教
小林 義史	アステラス製薬分子医学研究所 研究員
橋場 周平	株式会社日立製作所中央研究所ライフサイエンス研究センター バイオシステム研究部 主任研究員
松本 文彦	バイオテクノロジー開発技術研究組合 担当部長
榎野 正	バイオテクノロジー開発技術研究組合 事務局長、技術部長
松尾 次雄	バイオテクノロジー開発技術研究組合 顧問

<企画調整>

浅井 美佳 NEDO 総務企画部 職員

<事務局>

竹下 満 NEDO 評価部 部長

吉崎 真由美 NEDO 評価部 主査

森山 英重 NEDO 評価部 主査

一般傍聴者 0名

議事次第

(公開セッション)

1. 開会、分科会の設置、資料の確認
2. 分科会の公開について
3. 評価の実施方法
4. 評価報告書の構成について
5. プロジェクトの概要説明

(非公開セッション)

6. プロジェクトの詳細説明
 6. 1 基盤技術開発

6. 2 基盤技術の応用と評価研究
 6. 3 個別研究開発
 - (1) 遺伝子レベルでの創薬ターゲット決定の効率化
 - (2) 翻訳プログラミングに基づく統一的なスクリーニング系の構築
 6. 4 バイオテクノロジー開発技術研究組合委託分
 7. 全体を通しての質疑
- (公開セッション)
8. まとめ・講評
 9. 今後の予定、その他
 10. 閉会

議事要旨

(公開セッション)

1. 開会、分科会の設置、資料の確認
 - ・開会宣言
 - ・研究評価委員会分科会の設置について、資料1-1、1-2に基づき事務局より説明。
 - ・前田分科会長挨拶
 - ・出席者（委員、推進者、実施者、事務局）の紹介
 - ・配布資料確認
2. 分科会の公開について

事務局より資料2-1～2-4に基づき説明し、議題6.「プロジェクトの詳細説明」、議題7.「全体を通しての質疑」を非公開とすることが了承された。
3. 評価の実施方法
4. 評価報告書の構成について

評価の手順を事務局より資料3-1～3-5に基づき説明し、了承された。

また、評価報告書の構成を事務局より資料4に基づき説明し、事務局案どおり了承された。
5. プロジェクトの概要説明

推進者より資料5-3に基づき説明が行われ、続いて質疑応答が行われた。

主な質疑内容

- ・「質量分析サンプルの自動調整システムの開発と高感度の質量分析は大きな成果だが、プロジェクトの終了後も活用できるか」との質問があった。この質問に対して、実施者より「NEDOのプロジェクトとしては終了したが、有用性は示されたので、どう一般化していくかが今後の課題である」との回答があった。
- ・「創薬の加速は技術とビジネスの広い観点で考える必要がある。WHOの重点疾患489件に対して、米国の巨大製薬会社の注目疾患は29件に過ぎない。患者のニーズに応える新薬をどう開発供給するか、それに必要な仕掛けをどう考えるか」との質問があった。この質問に対して、推進者より、「NEDOは創薬の基盤技術構築に重点を置いており、米国の製薬企業が手を付けられない医薬について直接関与せず、企業に期待している」との回答があった。
- ・「プロジェクトの成果の実用化を促進する仕組みをどう考えているか」との質問があり、推進者より、「成果に関心を持つ企業と個別契約を推進している」との回答があった。

- ・「化合物ライブラリーに関して天然物に注目したことが特徴と思うが、企業からのライブラリーは今後どうなるのか」との質問があった。この質問に対して、実施者より、「当初は廃棄または企業への返却を考えていたが、今は、技術研究組合を作り、広く使うことができるシステムの構築に取り組んでいる」との回答があった。
- ・「5年間でプロジェクトは終了するのか。また、相互作用に関して18の系を選んだ戦略はどのようなものか」との質問があった。この質問に対して、推進者、実施者より、それぞれ「プロジェクトは一度終了する。しかし、他の案件とも比較しつつ、創薬支援は続ける」、「プロジェクトの前からターゲットの探索は続けてきた。がんなどに的を絞った。オリジナリティを重視した」との回答があった。
- ・「全体のネットワークは大きな基盤だが、公開するのか」との質問に対して、実施者より、「公開の予定である」との回答があった。

(非公開)

6. プロジェクトの詳細説明

省略

7. 全体を通しての質疑

省略

(公開セッション)

8. まとめ・講評

創薬の加速と言う意味では、患者数の少ない疾患も含めて対象疾患の拡大はできないか。また、プロジェクトの成果である基盤技術を広く使えるようにする周辺の努力も重要である。総じて、実り多いプロジェクトであった、などの講評があった。

配布資料

資料 1-1 研究評価委員会分科会の設置について

資料 1-2 NEDO 技術委員・技術委員会等規程

資料 2-1 研究評価委員会分科会の公開について (案)

資料 2-2 研究評価委員会関係の公開について

資料 2-3 研究評価委員会分科会における秘密情報の守秘について

資料 2-4 研究評価委員会分科会における非公開資料の取り扱いについて

資料 3-1 NEDO における研究評価について

資料 3-2 技術評価実施規程

資料 3-3 評価項目・評価基準

資料 3-4 評点法の実施について (案)

資料 3-5 評価コメント及び評点票 (案)

資料 4 評価報告書の構成について (案)

資料 5-1 事業原簿 (公開)

資料 5-2 事業原簿 (非公開)

資料 5-3 プロジェクトの概要説明資料 (公開)

- 資料 6-1 プロジェクトの詳細説明資料（非公開）
基盤技術開発
- 資料 6-2 プロジェクトの詳細説明資料（非公開）
基盤技術の応用と評価研究
- 資料 6-3 プロジェクトの詳細説明資料（非公開）
個別研究開発
- 資料 6-4 プロジェクトの詳細説明資料（非公開）
バイオテクノロジー開発技術研究組合委託分
- 資料 7 今後の予定

以上